

図表1 修正前の記入例(住宅リフォーム業)

1 創業の動機(創業されるのは、どのような目的、動機からですか)

昔から住まいづくりに強い憧れがあり、多くの女性に喜んでもらえるリフォームをしたいという思いが高まり、創業を決意した。これまで自分が感じてきた不便さを解消できるような提案をしていきたい。計画の細部は創業後に整えていくつもりで、まずは理想を形にすることを優先したい。多くの女性に共感してもらえれば、事業は自然と広がると考えている。

修正!

熱意や意欲が先行しすぎて事業が成り立つのか不安になる

図表2 修正後の記入例(住宅リフォーム業)

1 創業の動機(創業されるのは、どのような目的、動機からですか)

住宅リフォーム会社で15年間、主に間取り変更や水回り改修に携わってきた。その中で、女性の生活動線が十分に考えられていない住まいが多いと感じていた。そこで、家事や育児など複数の動きを同時に行う前提で女性の視点を設計に取り入れたリフォームを提案・施工し、評価を得てきた。創業に向けてはモニター調査や試作プランの提供を行い、具体的な受注見込みも確保している。これらの経験と準備を踏まえ、女性の暮らしに合ったリフォームを提供する事業を立ち上げることにした。

ビジネスプランの概略が読み取れる

経験・強み・準備状況・顧客見込みが一体となって示されている

(出所) 図表1・2ともに筆者作成

修正前(22ページ・図表3)

3 は学歴や勤務年数、昇格といった事実のみが並び、創業希望者がどのようなスキルを得て、どのような成果を上げてきたのか読み取れない。ここでは事業の運営に必要な実務能力やマネジメント力が備わっているかどうかを判断できず、経営者としての適性が伝わらない。

一方、修正後(22ページ・図表4)は予定事業との関連性が明確で、評価につながる情報が整理されている。大学で流通戦略・消費者行動を専攻していた点は、小売業の創業に直結する基礎知識を有していることを示す。

大手スーパーでの勤務経験も在籍期間の記載にとどまらない。売場計画、数値管理、発注精度改善といった具体的な業務内容が示され、実務能力が裏付けられている。

在庫回転率の向上という成

3 取扱商品・サービス

果は、改善力と数値管理能力を示す重要な実績である。チーム昇格の理由として「改善提案が評価された」という記載も、主体的に業務改善へ取り組んできた姿勢を示す。さらに、5名のチーム管理や教育、KPI管理といったマネジメント経験は、創業後の人材育成や店舗運営に直結する能力だ。これは経営者としての適性を強く補強する。経験の具体性や成果、予定事業との関連性、マネジメント経験が示された略歴は、計画全体の信頼性を高める。金融機関の担当者は融資審査のみならず、創業後の運営を見据えた助言につながるため、略歴を深掘りして強みを引き出す姿勢が重要である。

取扱商品・サービスは、事

記入例で理解!

# 創業計画書はこのようにブラッシュアップしよう

須田幸宏 三業るオフィス代表/中小企業診断士/CFP®/1級FP技能士

ここでは、創業計画書の記入例を見ながら、どのような要素・表現を盛り込めば創業融資につながるかを解説する。

## 1 創業動機

創業計画書は、創業融資の審査において最も重要な判断材料の一つだ。ここからは、創業計画書内の項目ごとにどうブラッシュアップするかを見ていこう。

創業動機は創業希望者の思いを述べるだけの項目ではない。事業の持続性や実現可能性を読み取るための重要な材料として扱うべき項目だ。

修正前の図表1は「憧れ」「喜んでもらいたい」といった感情が中心で、事業が成立する根拠が読み取れない。計画の細部を「創業後に整える」とする記述は準備不足の印象を与え、顧客獲得も「共感してもらえれば自然と広がる」と抽象的だ。熱意は伝わるものの、「なぜこの事業を成功させられるのか」という

## 創

業計画書は、創業融資の審査において最も重要な判断材料の一つだ。

根拠に乏しく、創業後の持続性を判断しにくい。

一方、修正後の図表2は、評価につながる情報が整理されている。まず15年間の実務経験が示され、創業希望者が持つ業務の専門性が明確だ。次に、女性の生活動線という具体的な課題認識が示されている。それに基づく提案・施工で評価を得てきたという記述から、独自の強みと市場ニーズが読み取れる。

事前の準備や行動は実行可能性を裏付ける

また、モニター調査や試作プランの提供といった準備は、創業に向けて実際に行動してきた証拠であり、計画の実行可能性を裏付ける材料となる。さらに、受注見込みを確保している点は初期売上の不確実性を下げる要素として高く評価できる。

## 2 経営者の略歴等

備状況・顧客見込みが一体となつている創業動機は、思いの表明にとどまらない、事業の骨格を理解できる要素となり得る。創業動機の段階でこれまでの情報が読み取れれば、計画全体の信頼性が大きく高まる。そして、創業希望者が創業後に強化すべき点を検討する出発点にもなる。創業動機は事業成功の可能性を見極める最初の重要ポイントなのだ。

経営者の略歴等は経歴紹介にとどまるのではなく、創業希望者が事業を遂行できる能力や資質を読み取るための重要な項目だ。計画の解像度を高めるために、略歴の内容が予定事業とどのように結びつくのかを丁寧に確認する姿勢が求められる。